

# 女性検事の仕事と子育て

さいたま地方検察庁刑事部検事 岡村 寛子  
(平成12年任官)

私は、任官7年目で出産し、約1年の育児休業を取得して職場に復帰した。上司の配慮もあって、比較的、穏やかなペースで職場復帰を果たすことができたと思う。

子育てと仕事の両立は、並大抵のことではない。日の出前から起きて、家事をこなし、子供の朝食、夕食を作り、子供が泣き叫ぶ中、心を鬼にして出勤し、子供が熱を出したとの保育園からの連絡があれば、すぐに子供を迎えに行かなければならない。どれだけ疲れていても、子供と触れあえる貴重な時間を大切にしなければならない。とても大変だけれど、これまでやってこられた。毎朝、子供を保育園へ送り届けてくれる夫、上司、同僚等周囲の理解と協力があったからこそだと思い、感謝している。この経験をいかして、今後は、女性職員にとってより働きやすい環境作りへの取組、例えば、各家庭の事情を勘案してチームとしてサポートするという体制をより充実させるなど、職員の家庭に突発的な事情が生じても、安心して周囲に仕事を任せられるような環境整備に向けた提言もしていきたいと思う。

検事の仕事は、男女の別を問わない。女性であっても、子育てをしながらも、やる気さえあれば、自分がやりたいと思う仕事を与えてもらえる。能力を発揮するチャンスを平等に与えてもらえる、数少ない職場ではないかと思う。

これからも、壁にぶつかることがあるのだろうけど、やりがいのあるこの仕事を生涯の仕事として続けたいと思っている。